

アイディアの宝船

Ja-Net 季刊ジャネット No. 50 別冊

- 中級のカオスに立てられたアンテナ..... 1
- 『みんなの日本語 中級 I』を使ってみました..... 2

『みんなの日本語 中級 I』レビュー

2009年7月25日発行

スリーエーネットワーク

中級のカオスに立てられたアンテナ

◆東京外国語大学
荒川洋平

数多い日本語教科書のうち『みんなの日本語 初級 I・II』ほど頻りに批判されてきたものはないだろう。例えばドリル重視に過ぎる、また文型が多過ぎるなど、僕たちはどこの国のどこの教育現場でも、この教科書への批判を耳にする。

それでは『みんなの日本語 初級 I・II』はそれらの批判にさらされた結果、絶版の憂き目に会い、「みんなの日本語? ああ、あったよねえ」と「そういえば的な扱い」をこの業界で受けているのだろうか?

そうではない。そうではないことは、誰もが知っている。

『みんなの日本語 初級 I』は発行部数でも国際的な広がりも、学校教育で採用されない教科書としては他書を圧し、日本語教育のスタンダードとしての位置を占めている。『みんなの日本語 初級 I・II』に向けられた批判は、女性雑誌の「好きな男」が同時に「嫌いな男」にもランクインするのと同じ現象だ。

そして今、『みんなの日本語 中級 I』が生まれた。

この本は中級というカオスの上に立てられた、定見を持ったアンテナである。本書が出版なった現在とこれ以降は、日本語教師は自らの好悪の問題はさておき、本書抜きでは中級を語ることはできなくなるだろう。

まず、授業のノーテーション(記譜)がさらに明確になった。課の頭に技能別の目標が記され、それは課の終わりまでの経緯を明確に示す。また文型は直後の練習で個別の定着が図られ、用いられているトピックも生活、仕事、学業と幅広い。少子高齢化や環境といった今日的な問題が小さな練習文に配置されていることも多い。これは『みんなの日本語 初級 I・II』までの精選された文型群を、手を抜かず再編成し、中級に位置づけてこそ可能な配列であり、内容であるだろう。

特に課の後半「話す・書く」においては古典落語から認知科学まで幅広く題材を求め、中級前期とは思えない噛み応えのある文章が多い。リトルドの可能性をここまで見せてくれる中級教科書は、管見では他に例をみない。

また、語彙学習の配慮も十分だ。「理想を+高く持つ」(p. 81)や「人間関係を+作る」(p. 113)などコトのモノ化やコロケーションにも、間断なく目配りがなされている。

そして、例えばカーナビの画像(p. 67)や世界遺産のイラスト(p. 151)など、授業を進めやすくするための詰めも怠っていない。僕はこのような「構え」にこそ、本書の真価を見る。漢字、会話表現を含めた索引は前著を凌駕する使いやすさだし、シラバス記述(p. 170)は、諸外国の日本語教育シラバスに反映させられる質を持っている。

この教科書が日本語教育に働きかけることは、実に大きい。

現職教員には、可能ならば副教材を一切用いずに、この1冊だけで大学の中級授業を1学期だけ教えてみることを勧めたい。また経験が浅い教員、これまで初級を中心に教えてきた教員も自身の勉強として、これを用いて中級を体験してみると良いだろう。

おそらく『みんなの日本語 中級 I』に対しても、『みんなの日本語 初級 I・II』と似たような批判をまた僕たちは聞くことになるし、するかもしれない。

けれど、僕たちはドリルなしで教室活動はできないことも知っているし、精選された多くの文型を学ばないことには、学習が先に進まないことも知っている。だから当分は『みんなの日本語 中級 I』の度量の大きさに甘えさせてもらい、本書を使い込みながら学習者を育て、自らも育てていくことにしよう。

なぜなら『みんなの日本語』の「みんな」には、他ならぬ教え手自身も含まれているからだ。仮にその自負がなかったら、どうしてこの教科書はこの名前を名乗れるだろうか。

荒川洋平(あらかわ ようへい)

東京外国語大学准教授。

専門は認知言語学。『もしも...あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』(正・続)が当社より好評発売中。現在、書き下ろし新刊を執筆中。



『みんなの日本語 中級 I』を使ってみました

● 合言葉は「ミラーさんといっしょ」

◆ヨシダ日本語学院
一条初枝

中級の勉強というのは教える側にとってもとても難しい。いつもどうやったらうまくいくか考えつつ何かもつといい方法はないものか、なくしたものが何だかわからない探し物をしているような感じです。世の中が変わって、若者たちの意識が変わっていかさういうレベルだけではなく、日本語学校の場合、学校にやって来る学生たちの国が変わり、言葉が変わり、文化が変わる。3カ月前にできていた授業ができなくなり、できなかったことができるようになるということもあるかもしれない。変わるということが普通なわけですから、だったらこれっていう定型じゃないところでやってみてもいいんじゃないかということで、やってみました、『みんなの日本語中級 I』。

新刊説明会に参加

神保町で開催された『みんなの日本語中級 I』新刊説明会に参加したのは、2月初めのことです。いつかいい時期に使うための参考にといいくらの気持ちで参加しました。会場には大勢の人がやってきていて、新しい教科書への期待の大きさを感ぜさせられました。

どうして、『みんなの日本語中級 I』が注目されているのか、個人的に思うところは教科書の中に現れる登場人物たちの魅力です。たとえば、マラソン大会で2位になったり（『みんなの日本語初級 II』第45課）、スピーチ大会で優勝したり（同『初級 II』第50課）していたミラーさんは、『中級 I』の中では、日本語能力試験に失敗して、課長にメンタルトレーニングを取り入れた日本語講座に通う許可を願い出たり（同『中級 I』第6課）、隣人から夜遅くの洗濯や掃除について苦情を言われて言い訳したり（同『中級 I』第12課）と、実はけっこう苦勞している生活者として登場しています。



また、『中級 I』の1課で大学生として登場したタワボンさんは、この教科書の終わり近くになって、日本の豊文化についてのレポートを書くときにお世話になった佐野さんに、自分の就職の報告とレポートのお礼を述べる手紙を書いています。

電車に忘れ物をして困っていたイーさん（同『初級 II』第29課）は、今回、乗る電車を間違えて教授との約束に遅刻してしまいます（同『中級 I』第3課）。「いつも難しそうな本を読んでいる」まじめな研究者が実はけっこううっかり者の側面を持っていることもわかります。このように『みんなの日本語』のなかには、日本で生活している留学生やビジネスパーソンの普通の生活の一端が描かれています。『中級 I』では、『初級』ほどに彼らの活躍が見られないのは残念だと思いますが、ミラーさんやタワボンさんの行動や言葉を通して、学び手とともに成長を続けていこうという作り手のメッセージを読み取ることができるのではないのでしょうか。新しい日本語教科書の可能性がここにあるのかもしれないと思います。ミラーさんをはじめとする登場人物たちは、この教科書で日本語を勉強している学生たちにとって、今は遠くにいるけれど日本の社会で生活している元クラスメートのような存在なのかもしれません。

スケジュールの工夫

『みんなの日本語中級 I』のスケジュールを立てるにあたり、説明会で公開された時間配分を大いに参考にさせていただきました。「文法・練習」4コマ（1コマ＝45分、以下同）、「話す・聞く」3コマ、「読む・書く」3コマを基本にして、課ごとの「問題」に1コマ。不思議なもので、紙の上でスケジュールを考え授業の組み立てを考えていくうちに、「なんだかやれそうな気持ち」になってきました。授業開始までもう1カ月もないというのに、何とかなると思えたのです。そして、学生たちの希望も確認し、スウェーデン6名、ベルギー2名、エストニア、フィリピン、韓国、オーストラリアそれぞれ1名ずつの合計12名でのスタートとなりました。

次のページに示したスケジュールは何度も変更し練り直され



た最終的なものです。最初のスケジュールには「作文」の時間がありませんでした。また、「1～6課テスト」も7課以降の各課のテストもあとから加えられたものです。

ほぼ一月に1度ずつあるスピーチテストは、苦肉の策で組み込んだものですが、加えて、作文の授業をスケジュールに組み込むきっかけにもなりました。

それぞれの課の最後に、「チャレンジしましょう」というタスクがあります。これは、その課で学んだことに関連することを学生自身が調べて発表するというものです。たとえば、1課では日本の「畳」について学びましたが、この課の「チャレンジしましょう」は、「あなたの国の住まいについて日本の小学生に説明します。部屋の様子や日常生活で使う道具なども、絵や写真を使って紹介してください」というものです。学生たちの自主学習のためにもぜひ取り入れたいタスクでしたが、どうしてもスケジュールの中に組み入れられません。そこで、4課ごとにこれらの中から自分でテーマを一つ選んで、それをスピーチとして発表するテストにしようということになりました。

しかし、スピーチとして発表するためには原稿が必要になります。初級のときに作文の書き方などとともに勉強していない学生たちにとって、その原稿を自分で書くということは至難の業でした。となれば、作文の授業をしなくちゃ、というわけで合計4回、作文の書き方の簡単なスキルから始めて、構成を考えながら書くという練習まで、スピーチの原稿を書くうえで最低限必要な勉強をしました。まさに必要に迫られて勉強することになった作文でしたが、結果的に学生たちの日本語への意欲にとってとてもいい経験となったようです。

ふだん達者な日本語で自由にやり取りできる学生でも、作文は何かたどたどしく、内容の確認も、個別に面談して質問しながらでないとう理解できないということがほとんどでした。しかし、学生たちの作文を読むのは実に楽しい作業でした。伝えたいことがそこにあったからです。学生たちは、赤ペンで真っ赤になった原稿をまた新しく書き直して、それを一生懸命覚えて、そしてスピーチに臨みました。最後は力尽きてスピーチをやらない学生もいましたが、3回ともやった学生たちは、達成感を得た様子で、「作文が本当に役に立った」「スピーチは楽しかった」と言っています。

これは「1～6課テスト」も同じです。月に一度のスピーチテストは確かにいいアイデアでしたが、文法の確認も避けて通れない勉強です。文法の授業時には、毎回新しい文法項目を使った文作りシートを準備していましたが、テストがあることで、わからないところを復習し、自分の理解がどれだけ進んでいるのか学生自身確認することが

みんなの日本語中級 I スケジュール

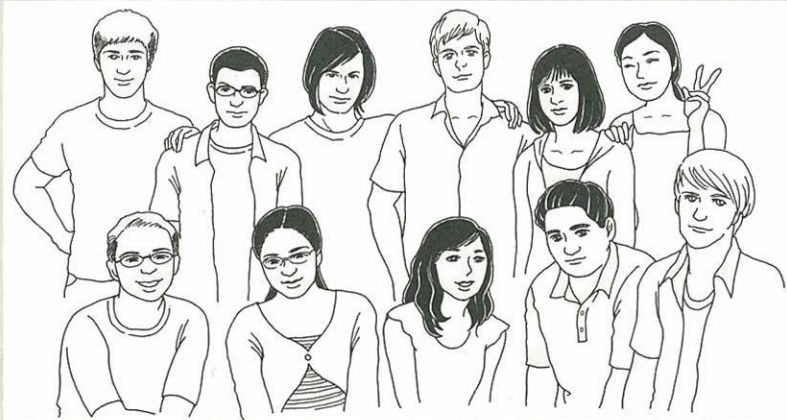
2009年4～6月

● 第1週					
	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)
1	漢字*	漢字	漢字	漢字	漢字
2	1課/文法・練習	1課/文法・練習	1課/話す・聞く	1課/読む・書く	2課/文法・練習
3		1課/話す・聞く	1課/読む・書く	作文①	
4				1課 問題	
● 第2週					
	4月13日(月)	4月14日(火)	4月15日(水)	4月16日(木)	4月17日(金)
1	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字
2	2課/文法・練習	2課/読む・書く	作文②	3課/文法・練習	3課/話す・聞く
3	2課/話す・聞く		2課 問題		
4			3課/文法・練習		
● 第3週					
	4月20日(月)	4月21日(火)	4月22日(水)	4月23日(木)	4月24日(金)
1	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字
2	3課/読む・書く	3課/読む・書く	4課/文法・練習	4課/話す・聞く	4課/読む・書く
3		3課 問題			
4		4課/文法・練習		4課/読む・書く	4課 問題
● 第4週					
	4月27日(月)	4月28日(火)	4/29～5/6	5月7日(木)	5月8日(金)
1	1～4課テスト	漢字	休み	漢字テスト+漢字*	漢字
2		5課/文法・練習		5課/話す・聞く	5課/読む・書く
3	5課/文法・練習			5課/読む・書く	5課 問題
4		5課/話す・聞く			6課/文法・練習
● 第5週					
	5月11日(月)	5月12日(火)	5月13日(水)	5月14日(木)	5月15日(金)
1	漢字	漢字	漢字テスト+漢字	漢字	漢字
2	6課/文法・練習	6課/話す・聞く	6課/読む・書く	7課/文法・練習	7課/文法・練習
3					7課/話す・聞く
4		作文③	6課 問題		
● 第6週					
	5月18日(月)	5月19日(火)	5月20日(水)	5月21日(木)	5月22日(金)
1	漢字	漢字テスト+漢字	漢字	漢字	漢字
2	7課/読む・書く	8課/文法・練習	8課/文法・練習	8課/読む・書く	7課 テスト
3			8課/話す・聞く		9課/文法・練習
4	1～6課テスト				
● 第7週					
	5月25日(月)	5月26日(火)	5月27日(水)	5月28日(木)	5月29日(金)
1	5～8課テスト	漢字テスト+漢字	漢字	漢字	運動会
2		9課/話す・聞く	9課/読む・書く	10課/文法・練習	
3	9課/文法・練習	9課/読む・書く			
4			8課 テスト		
● 第8週					
	6月1日(月)	6月2日(火)	6月3日(水)	6月4日(木)	6月5日(金)
1	漢字	交通安全教室	漢字	漢字テスト+漢字	漢字
2	10課/文法・練習		10課/読む・書く	9課 テスト	11課/文法・練習
3	10課/話す・聞く			作文④	
4					
● 第9週					
	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)
1	漢字	漢字	漢字	漢字テスト+漢字	漢字
2	11課/文法・練習	11課/読む・書く	10課 テスト	12課/文法・練習	12課/話す・聞く
3	11課/話す・聞く		12課/文法・練習		12課/読む・書く
4				12課/話す・聞く	
● 第10週					
	6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)
1	漢字	漢字	漢字テスト+漢字	修了試験	面談
2	11課 テスト	9～12課テスト	修了試験		
3	12課/読む・書く				
4					

*: 1限の漢字と漢字テストはヨシダ日本語学院オリジナル

できます。教師もまた、自分たちのやり方のどこに問題があるのか、授業を見直すいい機会になるわけです。

私たちも学生と一緒に多くのことを学びながらの3カ月でした。



- ◆ サンドラさん： 作文を書くのはほんとうに役に立った。スピーチもよくやった。
- ◆ ホセさん： 最後のスピーチはマチュピチュの発表をしようと思っいろいろ調べて準備したんですけど、朝起きられませんでした。できなくて残念です！
- ◆ ビムさん： Yuiの歌詞をスウェーデン語に翻訳しました。
- ◆ デビッドさん： 文法項目がまとめてあると、同じ言葉でも意

味の違うもの、たとえば、『こと』の使い方がわかりやすくなるので、そうしてほしいです。

- ◆ レフさん： 『みんなの日本語初級』は1998年に出ています。今、「中級」ができましたが、今までなにをやってきましたか。『みんなの日本語中級Ⅱ』はいつ出るんですか。
- ◆ マリアさん： 区役所で日本語について聞かれたときに「3級を取りたい」と答えて「産休を取りたい」と間違えられました。
- ◆ パウリさん： 言葉より態度が先です。敬語はなくてもいい。
- ◆ ジョハネスさん： 今は自信を持って話せるようになりました。失敗しても大丈夫。
- ◆ イレさん： コンビニで、学校で習ったばかりの「～させていただけませんか」を使って店長に休みのお願いをしたら、先輩に日本語が上手いとほめられました。使える日本語がたくさん勉強できました。中級を勉強したという感じです。
- ◆ スティーブさん： 日本の家は靴を脱ぐんですね。忘れ物したら大変です。
- ◆ クリスさん： パソコンはかしこく使いましょう。

ある日の授業風景

10課の練習に「Aさんは信じられない話をしてください。Bさんは理由を言って強く否定してください。」というのがあります。「はずがない」という文法項目のための練習なのですが、いつもは自信がなさそうに言いかけては途中でやめてしまうSさんが考えた文が実に楽しいものでした。「知っていますか、スウェーデンでは動物が言葉を話すんですよ」

相手の学生は「動物が話すはずがないよ。そんなばかなこと言わないでよ」と言い返しました。近くで聞いていて、私はその会話に加わりたくなってしまいました。「言葉を話すと、それはスウェーデン語？」「いえいえ先生、練習、練習」そうだった、練習でした。

また、やっかいな尊敬語を、それでも必要とする場面があるのだから頑張って覚えよう、と勉強することの意味を説明したときに「でも、尊敬語なんてムダだと思う。いらない」などとニコニコしながらPさんが宣言しました。「じゃ、いい機会だから、ほんとうに尊敬語はいらないと思うか、みんなで話してみよう」と水を向けると、Jさんが思い切って口を開いて「ぼくは国で仕事をしたときに、やっぱり敬語のような言い方で話をした。たぶん、どの国でもそれは必要だと思う」一彼は授業中、定型のパターンドリルではなかなか口が回らない学生の一人です。「だけども、尊敬語がわからないから、サービスの人が何を言ってるのかわかんないし、ぼくは普通の言葉で言われればわかるからそうしてほしいんだけど、尊敬語はじゃまだと思う」

なるほど、自分が使うっていうだけじゃなくて、聞くときに難しいってわけね。韓国や中国の学生中心のクラスだったら「難しくても仕方ない」と終わってしまうことの多いやりとりが、ここでは一つの議論のテーマになりうるということかもしれません。当人たちにその意識はあまりなかったとしても。

ところで、オフロードを走り続けたような3カ月を終えた担当教師の感想はというと、「楽しかった」との一言。「たぶん、学生たちが勉強を楽しんでやっているということがわかるので、私も楽しかったんだと思う」。

教師だって学生が楽しむ授業をしたいし、その一員に加わりたいのです。

3カ月に一度の進級試験（修了試験）も終わり、学生たちは今期末休みを楽しんでいます。試験は全員がすばらしい結果だったというわけにはいきませんでした。それぞれが次のクラスへの意欲を口にしていたことに私たちはほっとしています。せつかく自分の意思でやってきた日本での勉強を、嫌になったからやめるなんて悲しいことは言わせたくないのです。ともかく、日本語の勉強をもう少しいっしょに続けていきましょう。

一条初枝（いちじょう はつえ）

日本語学校や地域の日本語教室などで日本語を教えて22年。現在、東京・高田馬場にあるヨシダ日本語学院教務主任。

Ja-Net 季刊ジャネット No. 50 別冊

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2009年7月25日発行
 ●発行人 小林卓爾
 ●発行所 (株)スリーエーネットワーク
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
 営業広報部 Ja-Net 編集室
 TEL 03-3292-6193 FAX 03-3292-6194
 http://www.3anet.co.jp/
 ●印刷 日本印刷 (株)

© 2008 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)